

空が高い。

# 遙かな町へ

Quartier lointain

日本漫画を原作とする、2.5次元系"ではない"  
新たな舞台化作品がヨーロッパより上陸  
スイス人演出家による初演版を、日本人キャストで贈る凱旋公演

**CAST** (五十音順)

五十嵐遙佳 [育成対象者] / 稲葉欽喜 [育成対象者] / 猪俣三四郎 / 海宝弘之 / 小泉駿也 [育成対象者] / 近童式吉 / 阪本竜太 [育成対象者] / 谷村実紀 / 中野亮輔  
花島 令 / 藤井千咲子 / 星 怜輝 [育成対象者] / 松崎将司 [育成対象者] / 八鍬幸生 / 吉越千帆 [育成対象者]

**STAFF**

原作・テキスト：谷口ジロー / 演出・脚色：ドリアン・ロセル、デルフィヌ・ランザ / 脚色：カリヌス・コラジュ / 翻訳・脚色・演出助手：山上 優 / 美術・照明：ヤン・ベッカー  
音響：小林 史 / 衣裳：伊藤早苗 / 舞台監督：竹内一貴 / プロデューサー：小川 浩 (NLT) / アシスタントプロデューサー：中山百夏 (NLT) / 方言指導：劇創西社OHKUS  
協力：小学館 / 主催：文化庁・公益社団法人日本劇団協議会 / 後援：スイス大使館 / 制作：公益社団法人日本劇団協議会 / 制作協力：NLT

2022年  
**11月23日(水)ー27日(日)**

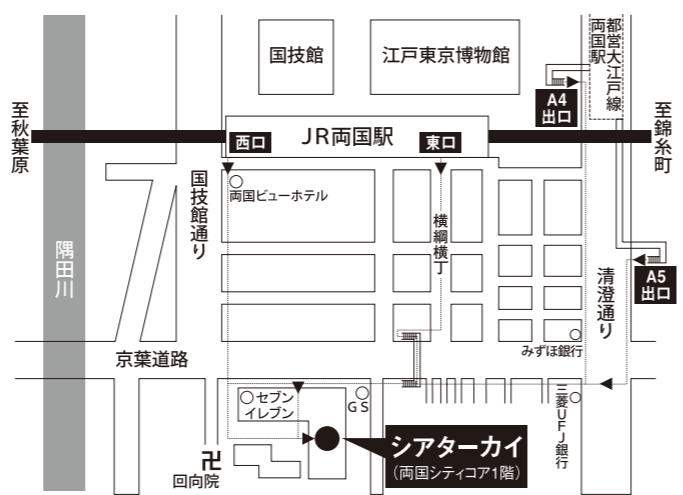
全席指定 5,000円 チケット発売日:10月19日[水]  
■ 配信チケット:3,000円 ※アーカイブ配信の詳細はこちら

スケジュール (開場は開演の30分前)

11月	23(水/祝)	24(木)	25(金)	26(土)	27(日)
13:00				●	●
14:00		●			
17:00	●				
19:00			●		

チケットお取扱い  
NLT ☎03-5363-6048 (平日11:00~17:00)  
NLTインターネット(Googleフォーム)予約はこちら  
カンフェティ <https://www.confetti-web.com/>  
☎0120-240-540 (平日10:00~18:00 ※オペレーター対応)

お問い合わせ  
NLT ☎03-5363-6048 (平日11:00~17:00)  
日本劇団協議会 ☎03-5909-4600 (平日10:00-18:00)  
※本公演における感染症対策については、ホームページにて最新情報をご確認ください。  
※公演中止の場合を除き、払い戻し、お振替は致しかねます。

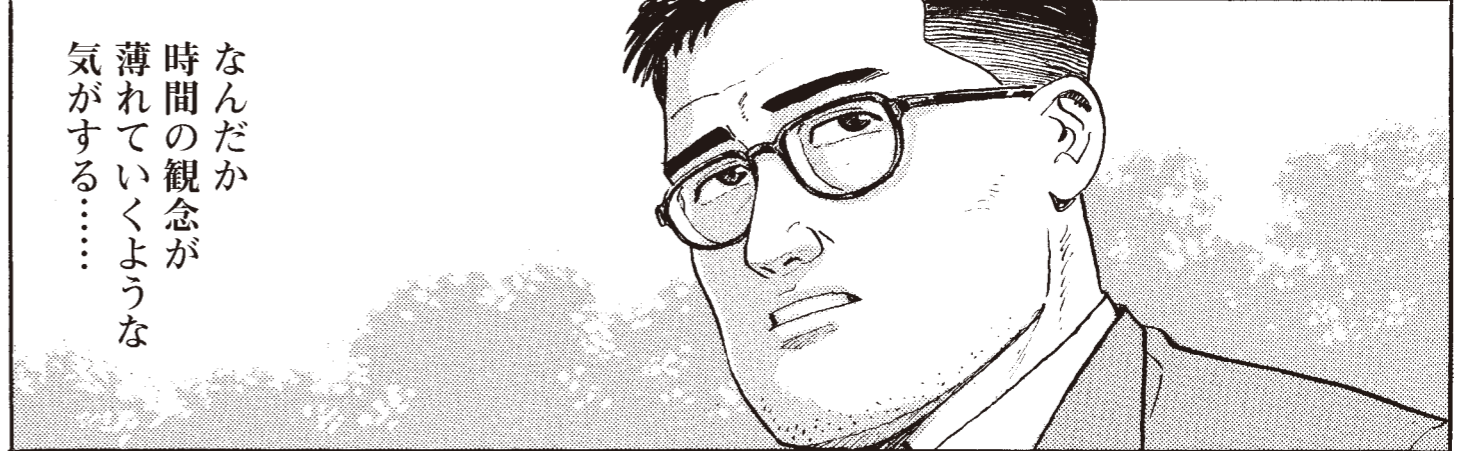


**劇場 東京・両国 シアターX**

JR総武線両国駅西口下車、左へ約3分  
都営地下鉄大江戸線両国駅A4・A5出口約8分  
〒130-0026 東京都墨田区両国2-10-14 両国シテコア1階  
提携：シアターX TEL.03-5624-1181

Schweizerische Eidgenossenschaft  
Confédération suisse  
Confederazione Svizzera  
Confederaziun svizra

Embassy of Switzerland  
スイス大使館



舞台写真：フランス公演より (STT)

6日後……  
父は私達の前からいなくなる……

原作：谷口ジロー 演出：ドリアン・ロセル / デルフィヌ・ランザ 翻訳：山上 優

# 遙かな町へ

Quartier lointain

11月23日[水]ー27日[日]  
劇場 東京・両国 シアターX  
全席指定 5,000円 チケット発売日:10月19日[水]  
■ 配信チケット:3,000円 後援：スイス大使館 提携：シアターX

日本の演劇人を育てるプロジェクト

「日本の劇」戯曲賞2022 正賞：作品の上演(2023年度) 副賞：賞金10万円  
〇最終選考委員〇 板垣恭一、内藤裕敬、中屋敷法仁、真鍋卓嗣、宮田慶子

「日本の劇」戯曲賞2021リーディング公演 『再生』 作/七坂稲 演出/板垣恭一  
2022.10.22[土]▶23[日] オールスタッフ稽古場Aスタジオ

海外研修の成果公演 『黒い湖のほとりで』 作/デア・ローアー 演出/西本由香  
2023.1.27[金]▶31[火] シアターグリーンBOXinBOX

新進演劇人育成公演 [演出家部門]

『血は立ったまま眠っている』 作/寺山修司 演出/三上陽寿  
2023.2.1[水]▶12[日] Space早稲田

『WHITE』 作・演出/倉田淳  
2022.6.10[金]▶19[日] ウエストエンドスタジオ

『落語芝居』『死神・貧乏神』 作・演出/大谷美智浩  
2022.6.13[月]▶19[日] HTSスタジオ

新進演劇人育成公演 [俳優部門]

『遙かな町へ』 原作/谷口ジロー 脚色・演出/ドリアン・ロセル、  
2022.11.23[水]▶27[日] シアターX

『会津・わが町ー三幕ー』 作/鹿目由紀 演出/西川信廣  
2023.2.2[木]▶5[日] 愛知県芸術劇場小ホール

新進劇団育成公演 『悼、灯、音藤』 作/原田ゆう 演出/シライケイタ  
2023.2.16[木]▶23[水・祝] 東京芸術劇場シアターイースト ※プリ事業あり

新進演劇人育成講座

鴻上演劇研究所ワークショップ 鴻上クラス / 黒川クラス / 板垣クラス  
2022.7.16[土]▶18[月・祝] / 8.27[土] / 9.3[土]▶4[日]

日本の近代・現代劇へのアプローチ 西川信廣演劇ワークショップ  
2022.7.25[月]▶8.7[日]

エデュケーションワークショップ 1DAY / インプロ、教育、DIE (東京・関西・沖縄・高知)  
2022.6.5[土] / 7月末~9月(各2~3日)

二人の演出家による俳優のためのスキル向上ワークショップ (韓国入演出家と日本人演出家)  
2022.8.3[水]▶7[日]

スタンラフスキシステムの基礎から学ぶワークショップ ベーシック / ステップアップ  
2023.2.13[月]▶25[土]

文化庁委託事業「令和4年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」 主催 / 文化庁、公益社団法人日本劇団協議会 ※2022年8月時点の情報です。

# 遙かな町へ

Quartier lointain

中原博史は出張からの帰りに間違っ  
て故郷の鳥取県倉吉に来てしまう。久  
しぶりの母の墓参りで目眩に襲われ気づ  
くと14歳の自分にタイムスリップしていた。  
48歳の記憶を持ったまま中学2年生の生活  
を送るが、その年の夏に父、中原与志雄が失  
踪したことを思い出す。父は何故家族の元  
を去ろうと思ったのか、中原博史は祖母に  
両親の間に何があったのかを聞き、父の失  
踪を止めさせようと父の行動を追いかける。

谷口ジロー [原作者]

1971年「週刊ヤングコミック」から、短編漫画『喰れた部屋』で漫画家デビュー。1994年に連載した、久住昌之原作の『孤独のグルメ』は大ヒットとなり、テレビドラマにもなった。海外での評価も高く、2010年に、イタリアで開催された「ルッカ・コミック&ゲームス2010」にて、同典における最高栄誉賞「Maestro del fumetto (マエストロ・デル・フメット)」を受賞。2011年にはフランスの芸術文化勲章シュバリエを受章した。

演出家 ドリアン・ロセルインタビュー

## 私を舞台化に向かわせたもの



演出のドリアン・ロセル(左)、デルフィヌ・ランザ

彼の作品の筆致にはとても深く繊細な洞察があります。何げない日常、あるいは一見平凡な風景の中の、感情の動きや、緊迫感の表現方法に大変心を動かされました。いわばチェーホフの、或いは映画人、小津安二郎の後継者と言っても良い



舞台写真：フランス公演より (STT)



生きよう、これが現実なら、もう一度14歳を生きしてみよう——そう思った。

信じがたい事だが、私は14歳の時にタイムスリップしてしまったのだ。



今年6月に日本版「遙かな町へ」に出演する俳優のオーディションの為、ワークショップに招かれ日本の俳優と出会ったとき、私はこの国の人々の感覚(そしてあらゆるもの)に対する繊細さと上品さに深い感銘を受けました。

この度ご覧頂く新たな創作は、数々の素晴らしい出会いの結実であり、これまでの旅路です。そして私たちにとってそれは、一人でも多くの人と分かち合いたいという夢が実現するという事です。劇場でお待ちしています。

2022年8月 ドリアン・ロセル

※演出のドリアン・ロセル氏、デルフィヌ・ランザ氏の率いるスイスの劇団、STT (Super Trop Top) は、演劇上演のために書かれた戯曲でないものを題材に、演劇作品に翻案、脚色を行い上演することを得意とする。



## フランス語圏で愛されるマンガ家 谷口ジロー

原 正人

日本のマンガが世界で人気と言われて久しい。特にフランスとベルギーを中心に欧州のフランス語圏での人気は目覚ましく、ここ10年以上、毎年1500点を超える仏訳が刊行されている。書店には「MANGA」コーナーがあり、おなじみのタイトルがズラリと並んでいる。この新型コロナウイルス流行下のフランスで若者向けに配布された文化クーポンの大半が、日本のマンガの仏訳の購入に使われたというニュースも記憶に新しい。

ひと口にマンガと言ってもいろいろある。売れ筋はやはり『ドラゴンボール』や『ONE PIECE』、『NARUTO -ナルト-』、最近であれば『鬼滅の刃』といった日本でもヒットしている少年マンガだ。だが、その中で異彩を放っているマンガ家がいる。谷口ジローである。

谷口は日本ではとりわけ、ドラマでも人気の『孤独のグルメ』で知られているのではないと思う。他にも『事件屋稼業』、『坊っちゃん』の時代、『父の暦』、『遙かな町へ』、『神々の山嶺』、『ふらり。』など傑作は多いが、通好みの作家と言うべきだろう。谷口がフランス語圏で「異彩を放っている」所以である。谷口は2017年に惜しくも亡くなったが、2021年から回顧展「描くひと 谷口ジロー」展が巡回中で、併せて「谷口ジローコレクション」が刊行されている。日本では今まさに再評価が進行中の作家である。

一方、フランス語圏での谷口人気はすさまじく、1995年の『歩くひと』を皮切りに、主要作品は軒並み翻訳(優に30点を超える)されている。それだけではない。ルーヴル美術館が主導した『千年の翼、百年の夢』や、ルイ・ヴィトンの「トラベルブック」

の1冊『ヴェネツィア』など、フランスのオリジナル企画も複数存在する。2011年にはその功績が国から評価され、芸術文化勲章シュヴァリエが授けられている。谷口の訃報は『ル・モンド』や『ル・フィガロ』等の有力紙でも大々的に報じられ、その人気のほどに改めて驚かされた。昨2021年にはフランス人監督パトリック・インバートによって『神々の山嶺』が劇場アニメ映画化され、今年2022年には日本でも公開されている。

谷口とフランスの関係を語るに当たって、忘れてならないのが『遙かな町へ』である。1998年に『ビッグコミック』誌で連載されたこの作品は、2002年に仏訳されると、マンガ界のカンヌとも言われるアングレーム国際漫画祭で最優秀脚本賞を受賞した。数十年ぶりに故郷を訪れた中年男性が、中学生時代にタイムスリップし、父親の蒸発を止めようとする様子を描いたこの作品は、フランス語圏の読者の琴線に触れたらしい。2009年にはスイス人演出家ドリアン・ロセルの手で舞台化され、2010年にはベルギー人監督サム・ガルバルスキによって映画化された。仏訳の累計部数は2011年時点で30万部を超え、今なお読み継がれている。

そのドリアン・ロセルの舞台が、今年ついに日本で上演される。谷口の傑作がスイス人演出家の手でどんな舞台に生まれ変わるのか、非常に楽しみである。

はら・まさと フランス語圏のマンガ「バンド・デシネ」を精力的に紹介する翻訳家。海外マンガを翻訳出版するレーベル「サウザンコミックス」編集主幹。トニー・ヴァレント『ラディアン』、バステイアン・ヴィヴェス『年上のひと』、ダヴィッド・ブリュドム『レベティコー-雑草の歌』など訳書多数。監修に『はじめての人のためのバンド・デシネ徹底ガイド』がある。

雑誌掲載時と同じ大判サイズで楽しめる決定版が、ついに発刊!

「谷口ジローコレクション」版

# 『遙かな町へ』

全国書店・ネット書店で絶賛発売中!!

本公演の原作であり、世界中で数々の賞に輝いた漫画史に残る名作が、愛蔵版として登場!

B5判・ハードカバー カラー完全再現 定価3900円(税込) 小学館